

社会技術研究論文集 論文執筆・投稿要領

1. 論文の投稿方法

社会技術研究論文集に論文を投稿する際は、以下に定める原稿および表紙のファイルを添付し、電子メールで社会技術研究会事務局（staff@shakai-gijutsu.org）まで送付する。

2. 原稿作成方法と書式

原稿は原則として Microsoft Word で作成するものとする。

原稿作成は別途用意した「社会技術研究論文集テンプレート（投稿用）」に記載された書式・文章様式に則ることを原則とする。また、掲載決定時には改めて「社会技術研究論文集テンプレート（掲載用）」に記載された書式・文章様式に則り、原稿作成を行うこととする。

3. 表紙

表紙は社会技術研究会の Web サイト内、論文募集ページから MS-Word ファイル「社会技術研究論文集原稿表紙(cover.doc)」をダウンロードして、必要事項を記入する。表紙には、著者名、所属、連絡担当者の氏名、連絡先の他、当該論文が社会技術研究論文集に掲載されることがふさわしい内容であること理由（資料「内容に関する掲載の判断基準の例」、「社会技術研究論文集が対象とする論文の例」を参照）を記載する。必要に応じて、既発表の研究成果との関係を記載する。

4. 原稿の内容と長さ

原稿には、表題部分（和文タイトル、英文タイトル、著者、所属と E-mail アドレス、要旨（アブストラクト）、キーワード）、本文、参考文献、謝辞、（付録、）脚注、英文表題部分（英文タイトル、英文著者名、英文所属と E-mail アドレス、英文要旨、英文キーワード）が全て含まなければならない。

原稿の長さは 10 ページ以内を原則とする。また、要旨は和文と英文とも 7 行以内とする。その他の部分についてはテンプレートを参照のこと。

5. 図・表関連

図・表に関する書式設定も原則としてテンプレートに従うこととする。また、白黒でプリントアウトする可能性を考慮し、図・表はできるだけ明白な白黒で作成することを勧める。

6. 参考文献における自著の扱い

社会技術研究論文集ではダブル・ブラインド方式による査読を採用するため、本文内ではできるだけ自著の引用を避け、どうしても自著の引用が必要である場合（過去の自著論文における成果を踏まえた議論となる場合など）は、「著者らは～」といった記述方法ではなく、通常の文献表記と同様とすることを求める。なお、重複投稿が疑われかねない場合には、別途表紙にてその旨を記載すること。

7. 謝辞の扱い

社会技術研究論文集ではダブル・ブラインド方式による査読を採用するため、謝辞（科研費等の研究費に関する記載も含む）は投稿用原稿には含めないものとする。掲載決定時には改めて掲載用テンプレート（著者所属・謝辞等を含めた形式）に従って原稿作成を求めするので、その際に必要に応じて記載すること。

8. 修正対応表の添付

査読の結果、修正を求められた場合（もしくは修正が望ましいとされたため修正する場合）には、必ず査読コメント対応表を添付の上で修正原稿を提出すること。査読コメント対応表については、様式を問わない。

特記事項

- (1) 原稿の書式・文章様式に問題があると判断された場合には、修正を要請することがある。なお、書式上の問題が甚だしく査読スケジュールへの影響が懸念される場合には、編集委員会における判断で不採択とする可能性があることを付記する。
近年、特にページのマージン指定、改行（見出し前など）、全半角指定（アルファベット・アラビア数字・記号は半角・Times New Roman）、参考文献書式などにおける書式逸脱が多く見られる。また、他の PC で表示した際に図表等の位置が崩れるといった状況も散見される。原稿作成にあたってはテンプレートおよび本要領を十分に確認した上で、投稿前に入念な校正を行うよう強く求める。
- (2) 査読のダブル・ブラインド徹底のため、論文内で著者が容易に判別できるような表現がないか、投稿前に十分な確認を行うことを求める。
- (3) 原則として原稿作成には MS-Word を用いることとしているが、これ以外のソフト・方法を用いたい場合には社会技術研究会事務局へ連絡すること。
- (4) 本論文集に掲載される論文は、社会技術研究会の Web サイトに加え、電子ジャーナルポータル J-STAGE においても公開を行う。そのため、登載が決定した論文の執筆者には、別途必要書類の作成を依頼する。

作成：2003年4月9日

修正：2007年8月28日

修正：2010年5月17日

修正：2011年6月22日